

事例：No. 13

作業班員のスキルアップで再チャレンジ！清水森林組合

1. 林業事業体等名 しみず しんりん くみあい 清水森林組合（和歌山県有田川町）
2. 林業事業体の概要
- ①年間素材生産量 863 m³（うち間伐の占める割合100%）
- ②生産する主な樹種 スギ、ヒノキ
- ③素材生産に関わる作業員数 6名（1セット3名×2セット）

3. 取組の特長

- 当組合では、平成19年度から搬出間伐に取り組み、平成20年度には約2,500m³の出材、労働生産性も5m³/人・日を達成したが、低コスト作業に従事してきた主要な職員の退職により事業を一時休止した。
- 平成22年度から搬出間伐に再チャレンジするため新たな体制を整え、研修の実施、外部林業事業体への派遣など、現場作業班員のスキルアップに取り組んでいる。また、平成23年度は、安定的な事業量確保と森林整備を通じた木材生産の増大を図るため、現場作業班の運用改善を行い、業務担当理事や職員などの協力のもと作業班員が自ら森林所有者のとりまとめや具体的な施業提案を行い、2箇所約650haの団地を設定して集約化を進めた。

4. 具体的な内容

①林分概況

面積 1.60ha 樹種 ヒノキ 林齢 52年生

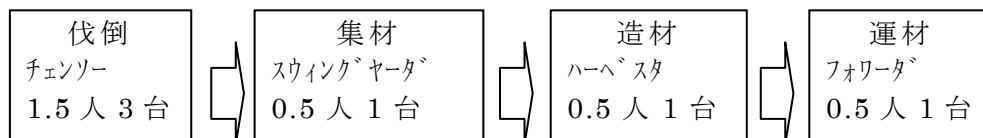
②施業方法

作業道開設と定性間伐（間伐率25%）の組み合わせにより実施。

③使用機械

バックホウ（0.25m³級）1台、ハーベスタ（0.25m³級）1台、スイングヤーダ（0.25m³級）1台、フォワーダ（3t）1台、

④搬出間伐作業システム



⑤作業路作設方法（基本指針）

表土ブロック積工法により実施、幅員3.0m切取法面の高さ2m以内、縦断勾配は概ね16%以下を標準とした。

（開設実績 延長500m、開設単価 約1,700円/m）

⑥労働生産性及び素材生産コスト

- (1) 労働生産性 2.1m³/人・日
- (2) 素材生産コスト 10,938 円/m³
- ・ 平成 22 年度は主に小面積な林分での定性間伐による施業となり、労働生産性、素材生産コストともに低位な実績となったが、1 事業地を大型化し、定性間伐から斜め列状間伐など施業方法の改善にも取り組んだ結果、平成 23 年度は 3.0m³/人・日(平成 22 年度と比べ労働生産性 136%)を超す事例も出るなど生産性は徐々に向上している。

5. 今後の取組等

- ・ 今後も、機械操作技術の向上のため OJT 研修や他事業体との人員の交流を継続するとともに、将来的に安定した事業量を確保していくため、森林所有者の集約化や施業提案に係る能力向上のための取り組みを進めていく。



【バックホウによる作業道開設状況】



【スイングヤーダ、ハーベスタによる出材状況】



【業務担当理事、作業班員による集約化の打合せ状況】

【報告者】

所属：和歌山県有田振興局林務課
林業普及指導員 宮前 哲也